

- ・ 地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

こんにちは！生協と杜協です！



「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと、
台風・豪雨災害での連携
について

長野県生活協同組合連合会 事務局長
長野県災害時支援ネットワーク 幹事
中谷隆秀(なかに たかひで)

長野県社会福祉協議会まちづくりボランティアセンター 主事
長野県災害時支援ネットワーク 事務局・幹事
徳永雄大(とくなが ゆうた)



今日お話すること

お話すること

- ① 長野県生協連と災害支援の活動の関り
- ② 災害前にはどんなことをしていたのか？
- ③ 災害発生 2019年10月13日の朝から
- ④ 情報共有会議の開催と集まる被災地の情報
- ⑤ 発災時の社協の動きと災害ボランティアセンター
- ⑥ オペレーション「ONE NAGANO」の成果＝被災地の空気を変える
- ⑦ 日本生協連を通しての全国の生協への支援要請
- ⑧ 全国の生協からの支援者の活躍
- ⑨ 農ボラ支援チーム
- ⑩ 復興にむけてのあゆみ
- ⑪ 第3回災害時の連携を考える長野フォーラム
- ⑫ これからの課題とまとめ



- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

①長野県生協連と災害支援の活動の関り

長野県生協連と災害支援の活動の関り

被災者支援・被災地支援は「生協」の基本的使命の一つ

【中期方針の重点課題】

安心してらせる地域社会づくりのために、地域のネットワークの一員として社会問題の解決に貢献します。

長野県生協連は県社協とも県NPOセンターともつながりがなく、県内の災害支援団体とも交流がない

東日本大震災の時には長野県内に大きな支援団体のネットワークが生まれたが、この時には長野県生協連は入っていなかった……



長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

②災害前にどんなことをしていたのか？

2016年12月：災害ボランティアセンター運営者研修会に参加

2017年4月：県社協と県NPOセンターと県危機管理防災課に電話

// 5月：JVOADの第2回全国フォーラムに参加

// 7月から4者（長野県・県社協・NPOセンター・生協連）で、長野県内の災害支援団体の交流会を開催するための企画会議を立ち上げた。

2018年1月：第1回災害時の連携を考える長野フォーラム開催

（園崎さん、明城さん登壇）

97団体、182名の参加で大成功！



長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

②災害前にどんなことをしていたのか？

その後……

2018年3月：4団体（連合長野・長寿社会開発センター・JC長野ブロック・県共同募金）を加えて、月に1回ネットワーク会議を開催。

2018年10月：関係団体との合同図上訓練

2019年3月：第2回災害時の連携を考える長野フォーラム

2019年6月頃から毎月災害支援の交流会「つながるBOOK」の開催。

2019年8月頃には「今、もし長野県内で大きな災害があったら誰が動けるの？私たちが中心になるしかないよね」という会話を何度かしていましたが、まさか……

2019年10月に令和元年東日本台風（台風19号）災害発生

ここまでの一連の流れが

「長野県災害時支援ネットワーク」につながる。



長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

③災害発生 2019年10月13日の朝

10月13日（日）の早朝の行動

上司に電話をして、とにかく県庁へ行く。

実は、県生協連（コープながのの本部内）が
浸水被害で、サーバーダウン、データーもなくな
り、インターネット環境も失う。

コープながのは100台以上のトラックが浸水
会員生協にも被害複数発生。

・県生協連は専務が事務所に常駐。
事務局長は毎日県庁災害対策本部
に行き、災害時支援ネットワーク
の事務局支援に入る体制へ。



コープながの本部建物とトラックの浸水
被害（約90cm浸水した）



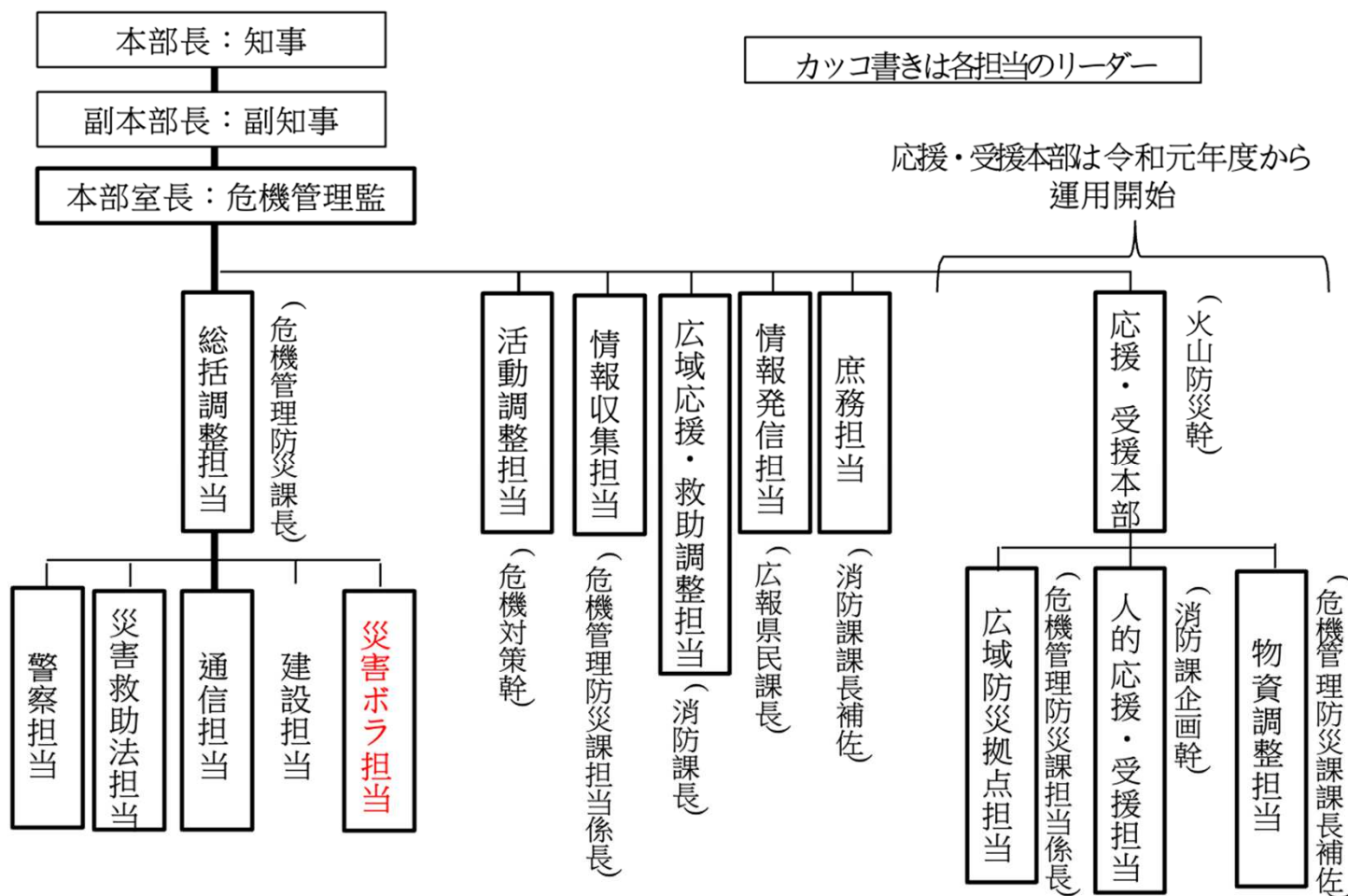
長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

③災害発生 2019年10月13日の朝

長野県災害対策本部 「災害ボランティア担当」

(構成)
危機管理防災課
地域福祉課
県民協働課
長野県NPOセンター
県社協
JV O A D



- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

③災害発生 2019年10月13日の朝から

令和元年台風19号 長野県災害時支援ネットワークの動き

- ◎ 県庁の災害対策本部の会議室1室が
「災害ボランティア担当室」
- ・刻々と変わる被災地ニーズを収集・把握し、
現場と本部をつなぐハブとしての役割を果たす
- ・外部支援者などが自由に出入り、情報共有、会議、作業などの拠点になる
- ・全国の中間支援組織からのスタッフ派遣や
ネットを介した事務局応援により、過去災害での知見が生かされた



- ・県職員と県内外のNPO・関係団体が
チームを組んで活動（現場では「長野県」腕章、統一のNPO支援チームビブス・名札を着用）

<長野県災害時支援ネットワークの取り組み>

(長野県災害対策本部に拠点を構え、常時の三者連携調整)

- 1 情報共有会議の主催（オープンな会議）
- 2 県、市、県社協、市町村社協との連携会議への参画
(コアメンバーによるクローズな会議)
- 3 被災者生活支援（避難所、仮設住宅、在宅避難者）
＜初動・復旧期＞シーズマッチング、避難所環境改善、
在宅調査への協力、寒さ対策支援、物資支援など
＜復興期＞：食生活自立支援、
被災地サロン、仮設住宅サロンの運営支援等
- 3 県・市町村災害ボランティアセンターとの
連携・運営への支援（広報・活動調整）
- 4 生活再建支援
信州農業再生復興ボランティアプロジェクト

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

④情報共有会議の開催と集まる被災地の情報

・毎回の情報共有会議に生協連は主催事務局として参加

第1回情報共有会議開催は10/14に開催。2月19日まで開催され、延べ258団体、1,230人が参加。

- ・避難所の課題、ボランティアセンターの運営体制、支援活動情報が集まる。また様々な支援ニーズを聞くことができる。
- ・日々支援ニーズが変化していく。
～「災害V Cの運営スタッフの不足状況」、
「炊き出しや足湯ボラ等避難所支援希望を、誰がつなぐ?」、「子ども支援をしたい、物資提供の申し出は? 様々なシーズの調整ができていない」、
「支援のシーズと現場のニーズの調整をするスタッフがいない」、「農家の被災者が園地の被害に落胆」

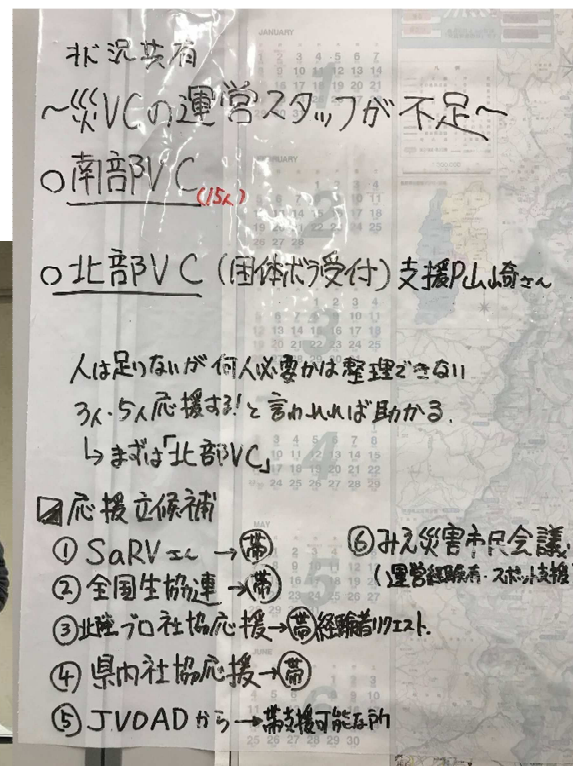


長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

④情報共有会議の開催と集まる被災地の情報

・ **情報共有会議**の中で、様々な支援団体との情報共有の中で解消される課題もあれば、なかなか解消できない課題もある。長野県災害時支援ネットワークの事務局運営に関わっていることにより、**今どこにどんな支援スタッフが必要か？**またその支援スタッフが組織的に帯で継続して入ることの有効性を把握できた。



長野県災害時支援ネットワーク

緊急開催!!

10月28日には県内の支援団体に声をかけをして 被災者応援会議

長野県台風19号災害

NPO・ボランティア団体、企業などによる被災者応援会議

次 第

日時：10/28(月)18:00~19:30

場所：もんぜんぶら座3階 地下ホール

内容

- 1 長野県災害対策本部からの情報提供
 - (1) 人的被害・住家被害状況、避難所開設、避難者数の状況
 - (2) ボランティア募集の状況
 - (3) 長野県災害時支援ネットワークの取り組み
- 2 全国規模の災害支援NPO団体から
「今」そして「これから」の復旧・復興支援
- 3 ワークショップ 「わちは何ができるのかを考える」





ONE NAGANO 災害復興応援会議

復興に向けて想いをひとつに

台風第19号の被災地では、被災された方々と共に、ボランティアや企業・団体など、多くのみなさんが声を掛け合い、励まし合いながら復旧を進めてきました。これからも被災者に寄り添い、一人ひとりの暮らしや、生業の再建への歩みを加速しなければなりません。

そのためにみんなの想いが多くの方と繋がり、地域に活力を取り戻すための大きな力を生み出す必要があります。被災者や支援者、行政などが一堂に集う会議を開催し、想いをひとつに、互いに支え合いながら、誰一人取り残されることのない復興を目指します。

【プログラム】

- 被災者、支援者によるリレートーク
テーマ：地域支え合い支援、在宅避難者支援など
- 参加者によるディスカッション

長野県知事も
参加します！

日時：2019年 12月18日（水） 18:30～20:45

場所：長野県生涯学習センター大学学習室2・3 (tel.026-233-8080)
〒380-0834 長野県長野市鶴賀問御所町1271-3

参加対象：住民自治組織、支援に携わるNPO、NGO、ボランティア、
社会福祉協議会、法人・企業・団体、行政機関など（要申込）

主催：長野県災害時支援ネットワーク 共催：長野県



ONE NAGANO

みんなでひとつに がんばろう信州

Working together to support one another

【問合せ】長野県災害時支援ネットワーク事務局（長野県庁内）
メール：nagano.saigaishien.net@gmail.com

【お申し込み】

長野県災害時支援ネットワーク▶▶

<https://nagano-saigaishien.net>

FAX.026-235-7284

〈長野県県民文化部文化政策課〉



12月18日には県内の支援団体に声をかけをして ONE NAGANO 災害復興応援会議





- ・ 地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

発災時の社協の動き

職員の安否確認

利用者の安否確認、建物等の点検

福祉避難所、地域包括支援センターの運営

被災地の状況確認

災害ボランティアセンターの設置検討

介護保険事業やその他事業の実施



長野県災害時支援ネットワーク

- ・ 地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

災害ボランティアセンターとは



被災地や被災住民は生活を取り戻すために公助や共助、互助、自助によって住家の復旧等を行う

しかし、被災状況によって公助等では補いきれない生活ニーズがある



全国から駆け付けてるボランティアの力を借りて、「被災者本位」「地元主体」「協働」でその補いきれないニーズの解決をする（マッチングする、つなぐ）

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

災害ボランティアセンターと Nネットの連携

大規模な災害では運営スタッフ
いるネットワークを通じて確

被災地・被災住民の状況をN
ことができた

全国から集まる支援を現地で
な支援を被災地・被災住民に



平時から仲間として仕事をしてきた信頼感、顔の見える関係

「オフィシャルになる前の情報」

「もしかしたらの情報」

をNネットと共有し、先手を打つことができた



長野県災害時支援ネットワーク

Operation:

One Nagano



被災者のために、市民、ボランティア、行政、自衛隊、すべての人の力を結集しよう

Operation One Nagano@長野市

市民、ボランティア、行政、自衛隊が連携し、災害ごみ集め、移動させます。

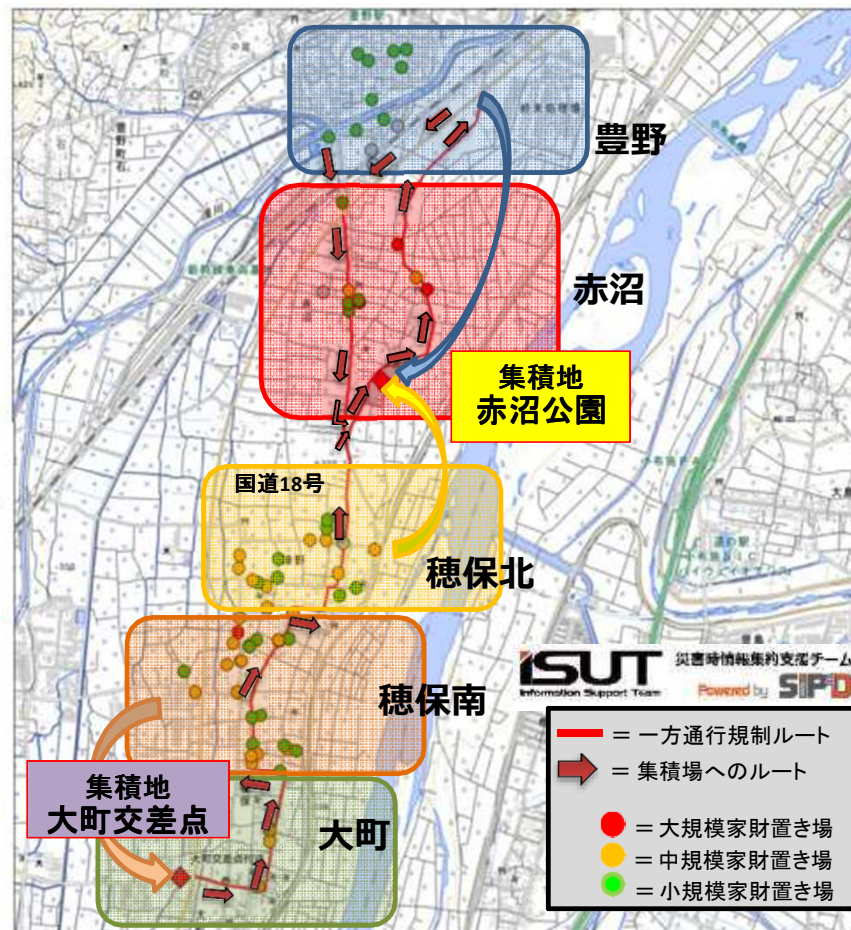
たくさんの災害ごみを集中的に大量に移動させるため、
ボランティア参加のご協力をお願いします。

(台風19号による災害ボランティアで県内初の大規模活動です)

* 県対策本部での国を含めたミーティングから実践へ

台風19号災害より、大量に発生した災害廃棄物を被災地域から無くすことが、緊急の課題となっています。**ボランティアの皆さんの力**を貸して下さい

市民、ボランティア、行政、自衛隊が一体となるこの活動を「One Nagano(ワナガノ)」と命名



「One Nagano」とは…

- ・昼間、市民、ボランティア、行政職員の力を結集し、長野市豊野地区等に点在する臨時集積所から赤沼公園&大町交差点まで移動させる
- ・夜間、自衛隊が赤沼公園&大町交差点付近に集めた災害ごみを地区外に排出します。



市民、ボランティア、行政、自衛隊の力で、**被災者のために一丸となって活動しましょう！**

【10月22日撮影: 赤沼公園】
大量の災害ごみがまだ周囲にも…



災害廃棄物対応

BEFORE



赤沼公園の廃棄物の一部(10/22)



提供: 防災科研

災害廃棄物等に関する関係者打合せ
(内閣府調査チーム主催)



提供: 防災科研

ボランティアへのオペレーション説明



AFTER



赤沼公園の廃棄物の状況(11/19)



自衛隊による赤沼公園から市内仮置き場
への廃棄物の夜間搬出・搬入



ボランティア等の軽トラ隊による
被災地から赤沼公園等への
廃棄物の搬出・搬入

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑤日本生協連を通して全国の生協への支援要請

日本生協連のバックアップで、10月25日より全国の生協から、延べ50人の生協職員の支援を受ける。

<要請した内容>

- 「災害ボランティアセンターの運営スタッフ」と「避難所支援チームのスタッフ」の要請

<支援内容>

- 長野市災害ボランティアセンターの受付・オリエンテーション・運営全般の支援
- 避難所支援活動の調整や連絡、コーディネーション補助

<人数と期間>

10月25日から基本4名(4名～8名)で1カ月程度の期間

10月25日～11月14日までの第1陣～第5陣の延べ26名

長野市南部ボランティアセンターの支援／避難所へのシーズニーズマッチング事務局支援

11月14日～11月30日までの第6陣～第9陣の延べ24名

長野市南部ボランティアセンターの支援／農業再生復興ボランティアプロジェクトの運営支援

※5日間のスパンで第1陣～第9陣まで述べ50人の帯での災害支援を行った。



長野県災害時支援ネットワーク

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑥全国の生協からの支援者の活躍

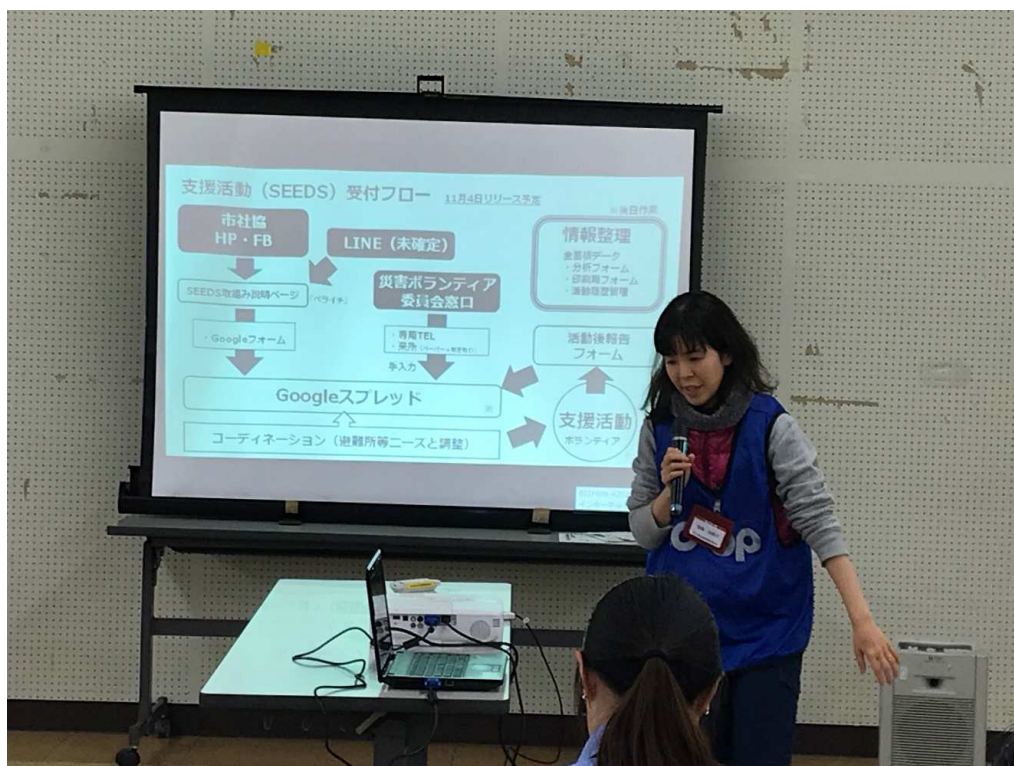
長野市南部災害ボランティアセンターの運営支援



- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑥全国の生協からの支援者の活躍

長野市ボランティア委員会のボランティアの避難所へのボランティアシーズとニーズ調整支援の事務局運営(マッチングシステムもグーグルフォームで構築)



被災者生活支援（避難所、仮設住宅、在宅避難者） ＜初動・復旧期＞ シーズマッチング、避難所環境改善



ダンボールベットの配置設計、設置
* 支援チームとして共同作業



長野市災害ボランティア委員会が行う炊き出し等のコーディネート支援
* 事務局スタッフの雇用、全国域の生協の運営支援をコーディネート



物資支援：

「スマートサプライ」を活用

(岡山NPOセンターから支援により、システム提供を行う)

避難所、災害ボランティアセンター、在宅避難者等のニーズを聞き取り

不足物資を受給調整しながら、調達・受け入れ

復興期：被災地サロン、仮設住宅 サロンの運営支援等



被災地内でサロン[「ぬくぬく亭」]が始動
在宅者へのアウトリーチ、見守り



長野市豊野区での炊き出し、在宅避難者の聞き取り、傾聴など
→住民自治協議会、住民団体、豊野賛育会、市災害ボランティア委員会、RSY、県社協、県ネットワークなどで協働運営

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑦農ボラ支援チーム

・信州農業再生復興ボランティアプロジェクト通称“農ボラ”の運営支援



4 生業支援～復旧期の緊急支援 信州の農家を救おう！ “信州農業再生復興ボランティアプロジェクト”



1 期 (11/14～12/15) 2 期 (2/16)
長野市 6731人、小布施町 806人
中野市 688人、須坂市 515人
計 8,740人

- 台風19号で被災した市町村は全国規模のりんご、ももなどの一大産地
- 農地には大量の泥や災害漂着物が堆積
発災1ヶ月を過ぎても農地復旧の手が追いついていない、**このままでは離農が懸念**
- 農家を救いたいという思い**のボランティア・NPOは多くいた



- * 行政の災害復旧事業との調整をはかりながら、民間と行政が協働
- * 災害漂着物の片付け、果樹の根回りの泥出しなどの限定して一刻も早く



信州の農家の再生・復興を目指す

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑦農ボラ支援チーム

農ボラの現場の様子と大阪府生協連の避難所への炊き出し支援の様子



- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

県内生協の支援活動の紹介

全国の生協からのご支援

- ・義援金の贈呈は8800万円。（コープながの4200万円、日本生協連より4600万円）
- ・支援金として、長野県社協に200万円と50万円、長野県災害時支援ネットワークに200万円、信州災害支援寄付基金（ONE NAGANO基金）に200万円を贈呈。
- ・コープこうべ、大阪パルコープ、大阪府生協連、その他多くの生協から支援を受ける。

県内生協の支援活動

- ・コープながのは自身の本部が浸水被害、トラックや営業車両100台以上の被害を受けながら、全国からのトラック支援を受け、宅配事業を1日も休まず稼働し、発災の翌日の月曜から配達時に飲料水・LLパン・タオル・軍手・マスクなどを持参しながら、お見舞い活動を開始。
- ・災害ボランティアの参加の呼びかけを組合員に2回配布。
- ・台風19号災害復興支援「ONE NAGANO×コープながの」の出発式。誰一人取り残されることのない復興へ想いを込めて、車両680台にONE NAGANOの横断幕を設置して配達。（右の写真⇒）
- ・長野県と長野県生協連は「災害時における物資の調達等に関する協定」に基づき、6回依頼を受け、合計511万円相当の物資を長野県に納めました。



- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

⑧復興にむけてのあゆみ

その後……Nネットは復興に向けて何をしてきたのか？

2020年3月：ONE NAGANO基金の立ち上げと基金による助成活動

全国支援団体は徐々に地元に戻り、被災地の地元の支援団体を支援する。
基金による支援団体への助成は2回にわたり、延べ49団体、1300万円。

2020年4月：コロナ感染拡大によるボランティア活動停止呼びかけ

その後、助成団体を中心に被災地での支援活動取材して発信を継続。
10月一周年イベントへの協力。

県社協のささえあいセンターの運営会議（月1回）への参加

継続してNネット幹事会を月1回開催し、被災地支援情報の共有

2021年1月：第3回災害時の連携を考える長野フォーラム

このフォーラムで災害発生以降の活動を振り返る。

災害時にNネットはどう機能したのか？



長野県災害時支援ネットワーク



みんなでひとつに がんばろう信州

みなさまからの寄付を
♡お願いいたします。



長野県PRキャラクター
「アルクマ」©長野県アルクマ

⑧復興にむけてのあゆみ

ONE NAGANO基金

目的

令和元年台風19号被災者を支援する団体への助成をします。
今後、長野県内で発生しうる大規模災害支援活動の基盤にします。

※コロナの影響で追加の活動支援の必要な団体にも助成します。

県と長野県災害時支援ネットワークで協働創設

<2020年1月7日時点>

寄付者及び団体数 59件
基金支援金総計 (長野県補助金含む)
17,940,503円

こどもの居場所
学習支援活動



被災者生活
支援活動



情報発信・
復興イベント等



コミュニティ
支援活動



ボランティアなど
人材育成活動



被災地での
居場所・サロン活動



	第 1 次助成	第 2 次助成
応募期間	3月16日～4月20日	7月31日～8月31日
応募状況	44団体 46事業 21,715,970円	27団体 27事業 5,983,002円

事業分野	第 1 次助成		第 2 次助成	
	件数	助成額合計	件数	助成額合計
被災者生活支援活動	13	3,975,000円	3	600,000円
情報発信・復興イベント等	5	1,530,000円	7	1,342,000円
コミュニティ支援活動	5	1,370,000円	5	1,261,000円
被災地での居場所・サロン活動	4	1,375,000円	0	0円
ボランティアなど人材育成活動	4	1,220,000円	1	200,000円
こどもの居場所学習支援活動	1	250,000円	1	200,000円
合計	32	8,825,000円	17	3,603,000円

⑨第3回災害時の連携を考える長野フォーラム

日本労働組合総連合会長野県連合会の岩崎恵子さんは、「日常的に顔の見えるNネットの関係ができていたから、『できたこと』があった」と話し、「情報共有会議でいち早く情報を得ることができた」、「**困った時に『あの人の顔が浮かんだ』**と、普段のゆるやかなNネットのつながりが、災害支援の場で活かした経験を報告しました。

長野県生活協同組合連合会の中谷隆秀さんは、「もし長野で災害が起きたら」を心配して、ネットワークづくりを呼び掛けた一人です。発災後は、現場の情報を集め課題を整理して対応するために、情報共有会議（第1回は10月14日、年明け2月29日までに計23回）を開きました。参加は、のべ258団体・1,230人に及んだそうです。

長野県長寿社会開発センターの戸田千登美さんは、上司から「うちが災害に関係があるのか？」と聞かれ、「**関係のある・なしではなく、関係をつくるんだ！**」と答え、自発的な取り組みで、ボランティアのバス配車や支援物資の仕分け、写真洗浄、手ぬぐい雑巾の作成など、**シニアが参加できる支援ツールが増えた**そうです。

日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会の野村和正さんは、長野県で地域ごとにある17の青年会議所が災害協定を結んで、「**何かあれば助けに行く！**」体制を紹介しました。日頃から、人の持つ能力や役割、規模などを知っておくことで、効果的で効率の良い取り組みができた経験を話しました。

長野県弁護士会の山岸重幸さんは、はじめて参加した情報共有会議で、1日の作業を終え集まってきたボランティアたちの迫力に圧倒され、「こんな場違いのところで法律が何の役に立つのかと思っていた」との**アウェー感**を紹介。まず顔を覚えてもらい、**そのうちに声を掛けてもらい、現場の困りごとを相談された**という経験を話しました。



長野県災害時支援ネットワーク



ゆるやかなNネットだったから参加でき、関係性ができた。情報共有会議でいち早く情報を得ることができ、困った時には「あの人」の顔が浮かんだ。

岩崎 恵子さん

日本労働組合総連合会長野県連合会

労働組合として、常に働く人の立場に立ち、生活者に寄り添ってきた活動をしている。災害支援では、ボランティア派遣と義援金カンパの集約、救援物資の支援などに、さまざまな団体のつながりを活かして取り組んできた。

労働組合からの働きかけで経営者協会や企業とも連携して、ボランティア駐車場とバス乗降場所の確保や電車の切符を手配することなどもできた。

・リレートーク前半
～災害支援NWとの連携の視点を含めての報告～
報告者①：岩崎 恵子（連合長野）

災害時の連携を考える 長野フォーラム

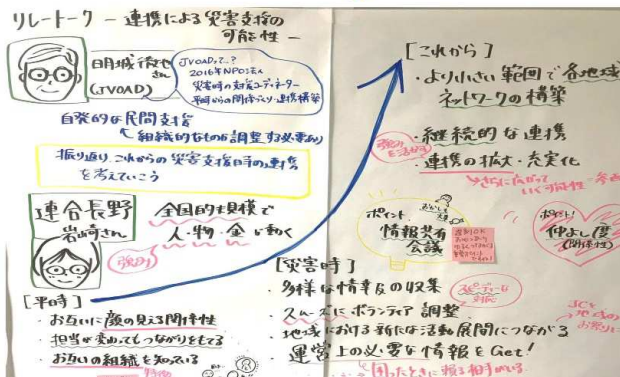
連合長野の紹介①（組織概要および活動）

【連合】《日本労働組合総連合会》は、1989年に結成された日本の労働組合の中央組織です。47都道府県に1つずつ地方連合会があり、加盟組合は全体で約700万人。長野県内では11万5,000人となっています。すべての働く人たちのために、権利と暮らしを守る取り組みを進めています。

長野市にある連合長野の他、長野県内10の地域に1つずつ地域協議会を設置して、労働条件・職場環境の維持改善といった職場レベルでの課題はもとろ、労働法制、社会保障制度、経済政策など、様々な社会的課題も解決しています。常に働く人や生活者に寄りそう、働く人の立場に立った活動をしています。



長野県災害時支援ネットワーク



日常的に顔の見える関係ができていたから、できたことがあった。あって良かった！Nネット



「もし、長野で災害が起きたら」を心配してネットづくりの声をかけた。発災後は、情報を集めて課題を整理して対応するため情報共有会議を開いた。

中谷 隆秀さん

長野県生活協同組合連合会

地域社会の課題は、生協の課題。安心して暮らせる地域づくりに地域の諸団体と連携協力して取り組んでいる。

災害支援は重点課題のひとつ。全国の生協に学んできた。生協は地域に役立つ事業継続で支援するのがメイン。地元のコープながのは被災していたが、災害時物資調達への協力は心強かった。

全国の生協から職員派遣（10月25日からのべ50人）が現地に入って、シーズとニーズの調整や災ボラ・農ボラの運営スタッフなどを務めた。

<情報共有会議の事務局として>

長野県災害対策本部へ毎日行き、災害時支援ネットワークの事務局支援に入った。第1回情報共有会議は10月14日。年明け2月29日まで計23回を開き、のべ258団体、1,230人が参加した。日々、支援ニーズが変化していく中、「ボランティアセンターの運営スタッフは不足していないか」、「支援のシーズと現場のニーズを調整するスタッフがいない」、「地域農家が園地の被害に落胆している」など、さまざまな情報を集めて対応した。

・リレートーク前半
～災害支援NWとの連携の視点を含めての報告～
報告者②：中谷 隆秀（長野県生活協同組合連合会）

災害時の連携を考える 長野フォーラム

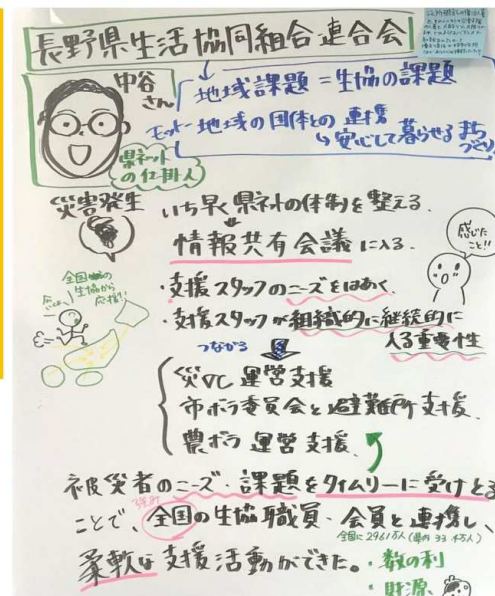
・情報共有会議に主催事務局として参加

第1回情報共有会議は10月14日に開催。2月19日まで開催され、延べ258団体、1,230人が参加。

・避難所の課題。ボランティアセンターの運営体制。支援活動情報が集まる。また様々な支援ニーズを聞くことができる。
～「災害時の運営スタッフの不足状況」、「炊き出し足量ボラや避難所への支援資金を誰がつかうか」、「子ども支援をしたい。物資提供の申し出は様々なシーズの課題ができていない」、「支援のシーズと現場のニーズの調整をするスタッフがいない」、「農家の被災者が園地の被害に落胆」



長野県災害時支援ネットワーク



全国の生協からのさまざまな人的・物的なご支援や募金に改めて感謝します。



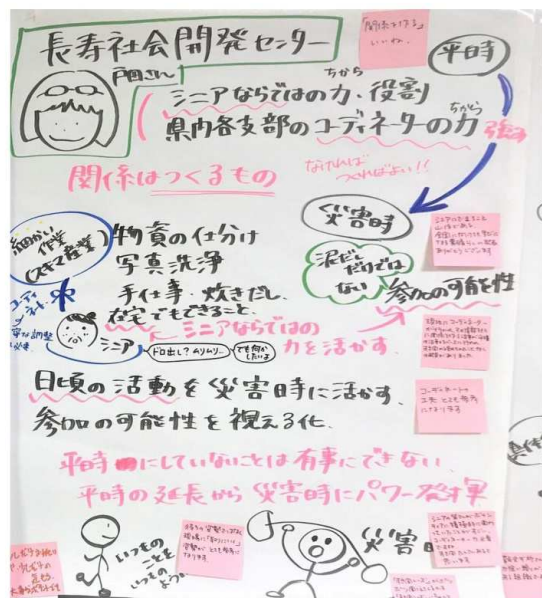
「うちが災害に関係あるの？」と聞かれ、「関係をつくるんだ！」とNネットに参加した。シニアにも、在宅者にも、誰にもできることはある。

戸田 千登美さん

長野県長寿社会開発センター

人生二毛作。普段からシニアならではの出番と役割を発掘し、豊かな経験で培ったコーディネート力などを発揮いただいている。災害支援でもシニアならではのスキルと経験が活かされた。

現場で「こういう人いないかな？」というつぶやきをひろって、支援のすき間を埋めることができた。現場に行ったら、聞いていたのと違うということもあったが、Nネットに参加していたのでスムーズに協力できた。自発的な取り組みで、シニアの参加できるツールが増えた。



<シニアや女性たちの支援活動>

泥出しは体力的にムリでも、在宅の高齢者でも、できることはある。災害ボランティアセンターでのバスの配車、現場のニーズに応じた支援物資の仕分け、炊き出しやボランティアへの差し入れ、写真洗浄、ゴミ出しと堆肥づくり、手ぬぐい雑巾の作成など。

リレートーク前半
～災害支援NWとの連携の視点を含めての報告～
報告者：戸田 千登美
(公財)長野県長寿社会開発センター

■シニアならではのスキル・経験を活かす



県の支援物資センターで避難所への物資の仕分け作業



長野県災害時支援ネットワーク



連携の重要性を過去の災害で経験。長野県内17の青年会議所と毎年、災害協定を結んで「何かあれば助けに行く！」体制を整えている。

野村 和正さん

日本青年会議所長野ブロック協議会
2019年度会長

青年会議所は20～40歳までの青年で構成し、JCと呼ばれる団体。長野県では、地域ごとに17の青年会議所がある。各地域、エリアごとに人材育成や地域発展事業を通じて明るい豊かな社会を創ることを目的に活動している。

日頃の情報共有で、その人の持つ能力や役割、規模などを知っておくことで、効果的で効率の良い取り組みができる。

<支援活動を支えた財政と取組>

日本青年会議所から災害発生時の緊急活動費として、発災翌日に100万円を拠出。地元の状況にあわせて自由に使えるという指示と寛容さに助けられ、支援物資の購入などに活用した。

現場で「スコップがない」との情報を受け、被災が無かった長野県中南信地域の青年会議所メンバーである小売業者がスコップを調達して、運送業者が配送するなど、他業種で連携できた。

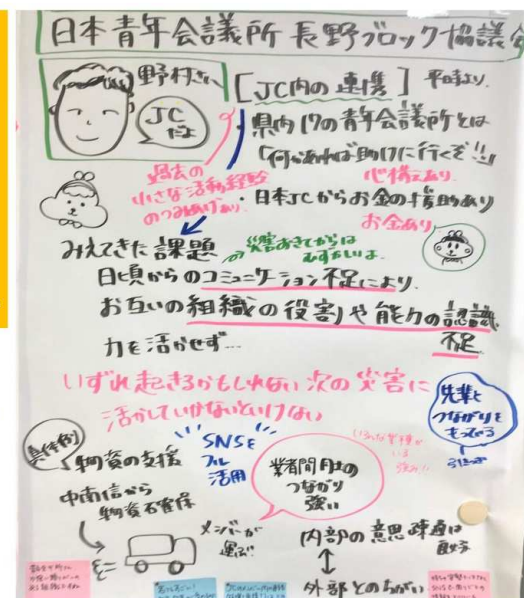
リレートーク前半
～災害支援NWとの連携の視点を含めての報告～
報告者：野村 和正
(公財)日本青年会議所 長野ブロック協議会

連携の重要性

- ・課題
 - 連携先とのコミュニケーション不足・不確実
 - どこと連携すればいいかわからない
 - お互いの役割・能力の認識不足
 - 指揮命令系統の不統一性
- ・解決に向けて
 - 連携先とJCとの日頃からのコミュニケーション
 - 規模、能力、役割、情報の共有と想定



長野県災害時支援ネットワーク



平時にしていないことは有事にはできない。だから、普段の動きを大事にしよう。

いずれ起きるかも知れない災害に備えて今回の経験は無駄にしない。



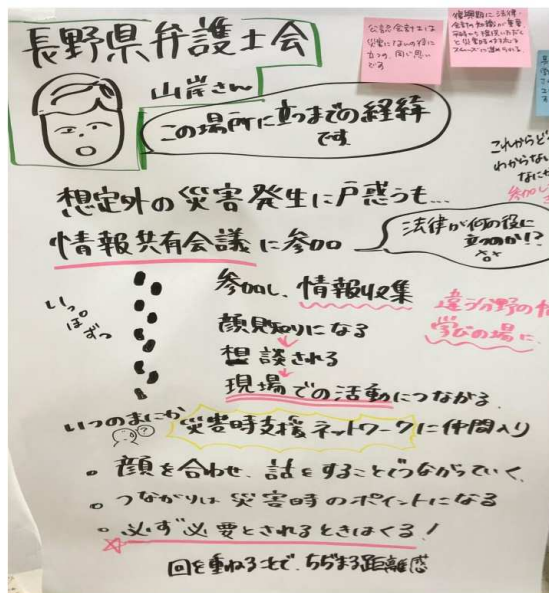
現場ボランティアの迫力に圧倒された情報共有会議は場違いで「法律が何の役に立つのか？」と思っていたが、必ずどこかで必要とされる時はある。

山岸 重幸さん

長野県弁護士会

長野県弁護士会災害対策委員会として、地震を想定した研修などは実施していたが、水害は想定外だった。

災害支援に詳しい県外の弁護士から連絡を受け、情報共有会議に参加したが、何だか場違いな疎外感・アウェー感。最初は見守るしかなかったが、とにかく参加し続けることを自分で決めた。毎回、夜7時から2時間以上の会議。差し入れの夜食がうれしかった。まずは顔を覚えてもらうこと。そのうち声をかけてもらい、現場の困りごとを相談された。



<情報共有会議で得た成果>

(あくまで個人の感想)

- 最初は情報収集が主だったが、専門外の情報が多く、極めて有益だった。
- 弁護士会の法律相談や説明会を告知した。
- 長野県弁護士会ニュースを配布したが、字が小さく情報があり過ぎなどの感想を得て、その後の作成に役立った。
- 罹災証明書などの行政手続きや自然災害ガイドライン（債務整理手続）などの説明会を実施した。

5 改めて思うこと

- ・やっぱり、「顔を知っている。」「話したことがある。」これは大きなきっかけになる。
- ・自分が何の役に立つのだろうか。と考える必要はない。
- ・必ず、どこかで必要とされる場面がある。
- ・人見知りでも、口下手でも何度か顔を合わせて、話をしているうちに何とかなる。
- ・夜食、お茶菓子は大変。会議の雰囲気をもたらし、会話が弾む。
- ・単に弁護士業務をしていただけではわからなかったことがいろいろ情報として知ることができ、非常に役立った。

普段は接点のない団体が関係を深めることに意義とメリットがある。



災害支援の現場では、情報の共有が“命”とも言える大事なもの。23回に及んだ情報共有会議が、現場の支援に役立ったことをうれしく思う。

山室 秀俊さん

長野県NPOセンター

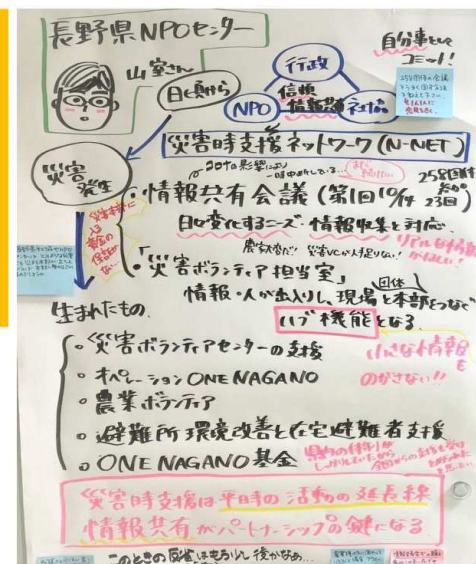
連携の取組につながる背景は、「長野県地域防災計画」に“ボランティア団体間の連携”が規定されていること。

策定段階から参画してきた「広域受援計画」にも“ボランティア・NPO等の活動調整”と明記されている。

5年ほど前から、災害に備えたフォーラムやワークショップ、訓練、その他の事業を通じて、日頃から「汗をかきあう信頼関係」と「幅広い情報共有・コミュニケーション」ができていた。

<情報共有会議の意義>

- 全体の状況を俯瞰して見ることで、次の具体的な動きにつなげることができた。
- 課題別に分けた小グループでは、現場の生々しい声とリアルな状況を知ることができた。
- 10月28日には、何かしらの情報を得たいと150人が集まった。情報共有会議に参加すれば、情報があると知れ渡っていた。



災害支援の現場では、普段やっていないことは、実行できない。

⑨第3回災害時の連携を考える長野フォーラム

長野県NPOセンターの山室秀俊さんは、5年ほど前から行ってきたフォーラムやワークショップなどを通じて「汗をかきあう信頼関係」と「幅広いコミュニケーション」ができていたと話し、災害支援の現場で「命」とも言える情報を提供・交流してきた情報共有会議が果たした役割を高く評価しました。

長野県社会福祉協議会の山崎博之さんは、ボランティアの三原則を、被災者本位・地元主体・協働と紹介し、「信頼できる顔の見える関係が復興の歩みを支えてきた。Nネットがあって本当に良かった」と、支援現場の最前線に関わり続けてきた経験を振り返りました。

長野県危機管理防災課の古越武彦さんは、行政の役割を「エンジンオイルのようなもの」と例えました。行政は仕組みや形を作れても、魂を入れることが苦手。環境がどんどん変化する中で、柔軟な対応ができたのは「Nネットの力だった」と評価しました。

長野県社会福祉協議会まちづくりボランティアセンターの福澤信輔さんは、現場の声に応えて実現させた「信州農業復興再生ボランティアプロジェクト（通称：農ボラ）」の経緯と取組を紹介しました。「できるのか」との不安を払しょくしたのは、多様な連携で「できます」と答えたNネットの持つ信頼感だったそうです。

長野県共同募金会の塩澤宏之さんは、県の助成金と個人・企業からの寄付などにつくった「ONE NAGANO基金」を、Nネットが全力で走りながら試行錯誤してきた官民連携の新しい仕組みと評価しました。



長野県災害時支援ネットワーク

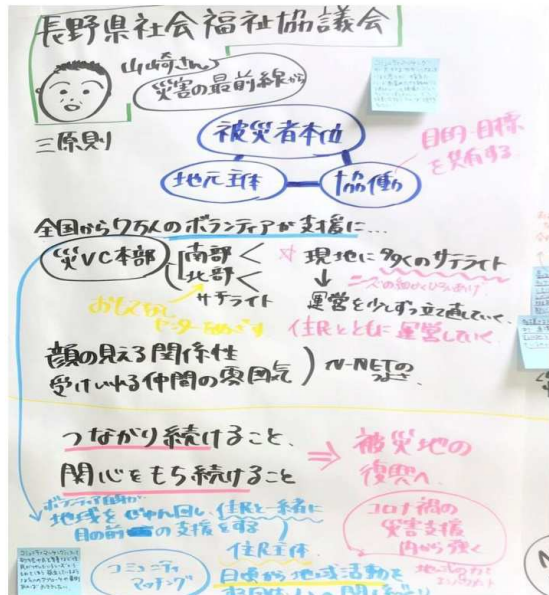


支援現場の最前線に関わり続け、協働の力が復興の歩みを支えていると実感。信頼できる顔の見える関係があって、本当によかった。

山崎 博之さん

長野県社会福祉協議会

災害ボランティアセンターの3原則は、「被災者本位」を常に中心に置き、そして「地元主体」と「協働」が加わる。災害時に多様な団体と協働していくためには、被災者本位を基軸にして目的や目標を合わせていく必要がある。ボランティア活動を通して住民と対話し寄り添った活動を展開できたのも、Nネットにボランティアセンターの運営を任せることができたおかげで、たくさんのスタッフを被災地域にあるサテライトに配置できたから。



本当に困っている時は「助けて」と言えないものだと知った。気づいてもらえることがうれしかった。



環境がどんどん変化する中、切れない連携で柔軟に適応（レジリエンスな連携）ができたのはネットワークの力。

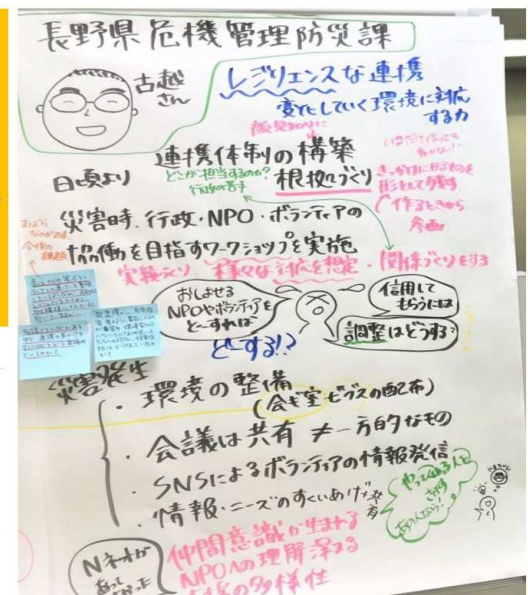
古越 武彦さん

長野県危機管理防災課

長野県災害対策本部室は、「NGO・NPO代表等（協働機関）」を体制の中に入れ、広域受援計画の策定にも加わってもらった。災害支援の現場では、NPOなどの人たちが「怪しまれずに入るには」を考え、腕章や「長野県」のビブスを用意した。行政は仕組みや形を作れても、魂を入れることは難しい。堅苦しく形式的だと言われる行政は、柔軟な対応にも限界がある。

<ネットワークの力>

大量に発生した災害廃棄物を、被災地域から無くした「OneNaganoオペレーション」の成果もボランティアの皆さんの力があつたからこそ。「この人に頼めば、やってくれるんじゃないか」という信頼感が生まれた。「できるんじゃないか」、「よい知恵があるんじゃないか」と相談できる垣根を超えていっしょにできる仲間ができた。



行政の役割を例えるなら、自動車のエンジンオイルのようなもの。



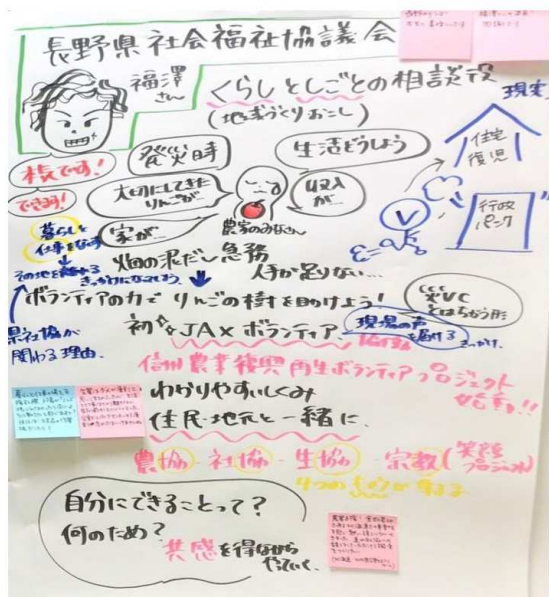
「誰のため、何のため」を常に考え、ぶれないことが大事。協働したことで生まれた化学反応が、大きな力になった。

福澤 信輔さん

長野県社会福祉協議会
まちづくりボランティアセンター

家も農地も泥だらけになり、暮らしの場と仕事の場を同時に失った住民は、そこに住み続ける理由がなくなってしまう。地域を離れていくきっかけになってしまうのではと危惧した。

りんごの樹を埋めた泥をどかして呼吸できるようにしたい。大丈夫という安心感を届けたいと考え、災害ボランティアとは別に「信州農業復興再生ボランティアプロジェクト（通称：農ボラ）」を立ち上げた。



自分ができることはなんだ？
地域の可能性を信じて、地域の復興を信じて



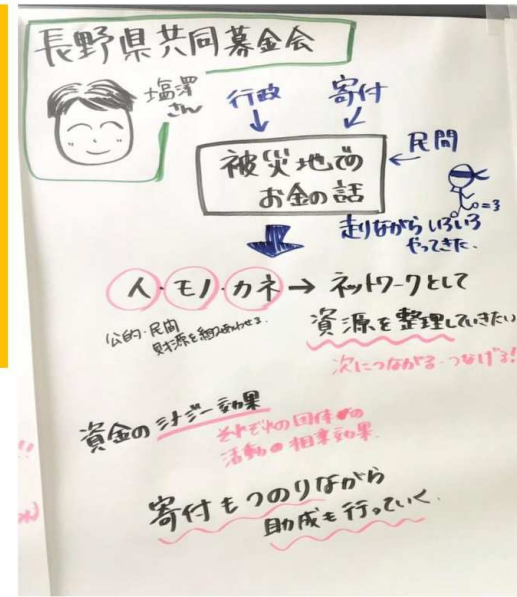
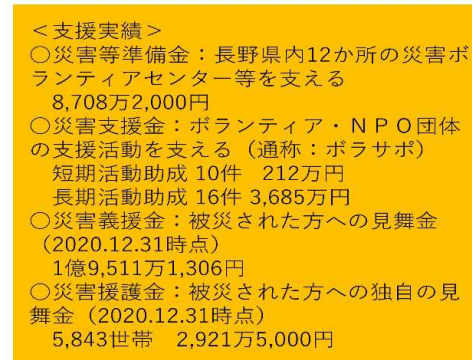
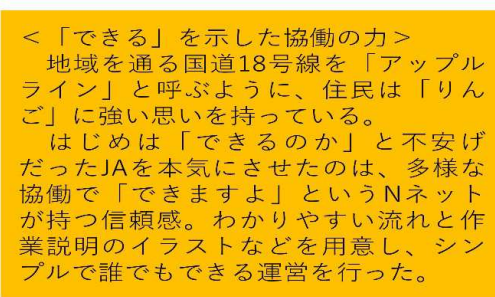
「ONE NAGANO基金」は県の助成金と個人、企業からの寄付などによる官民協働の新しい仕組み。
Nネットは全力で走りながら試行錯誤してきた。

塩澤 宏之さん

長野県共同募金会

「長野県東日本大震災支援県民本部」は県内初の官民連携の取り組み。その後、「地域・企業・NPO等による災害時の連携支援事業」などの取り組みを通じて、県域の災害時のネットワークづくりが進んだ。

災害時の資金調達（ファンドレイジング）は、公的財源（税金、ふるさと納税等）と民間財源（寄付金、助成金、共同募金等）、自己財源による多様な財源を効果的に組み合わせる。それぞれが一体になって発揮され、てこ（レバレッジ）効果や相乗（シナジー）効果を生み出す。



平時から意識してリソース（人、物、金、情報等）とオペレーション（プロセス・組織等）を備えておくことが大切。

ゆるやかなつながりが活きた災害支援

10名のリレートークで共通して感じられたのは、「つながりがあって良かった」との思いでした。普段からゆるやかにつながって、互いにどんな人か、なにができるのかを知っていたNネットが、「いざという時にとても役に立った」と言います。「あの人に頼めば、相談すれば、できるんじゃないか」という信頼感があったようです。

全国から駆け付けてくれた8万人を超えるボランティア（農ボラを含めた概数）を受け入れて円滑に作業を進められたのも、現場の困りごとやニーズに寄り添ってきめ細かに対応できたのも「ネットワークの力だった」といった報告もありました。

被災地の復興には長い年月がかかります。関心を持ち続け、つながり続けることが、被災者を支え、復興を助ける力になります。「関係あるのか？」ではなく、関係はつくるもの。「役に立つのか？」と考える必要はなく、いつかどこかで必要とされる時がくること。「あの時」ではなく、「これからも」支援の力が必要なこと。

ゆるやかなつながりが、いざという時の頼りになることをNネットが教えてくれました。

新型コロナウイルスの影響で、地域外から災害ボランティアを受け入れることが難しくなっています。外部の支援に頼ることができない以上、身近なつながりが大事になります。他人事ではなく自分事として地域に関わって、互いの顔が見え知恵と汗を出し合える関係を築くことが必要です。

〈長野県災害時支援ネットワーク（通称「Nネット」）の構成団体〉

長野県生活協同組合連合会、日本青年会議所北陸信越地区長野ブロック協議会、長野県長寿社会開発センター、長野県共同募金会、日本労働組合総連合会長野県連合会、長野県弁護士会、長野県社会福祉協議会、長野県NPOセンター / ※長野県災害時支援ネットワーク<https://nagano-saigaishien.net/>



長野県災害時支援ネットワーク

⑩これからの課題

長野県災害時支援ネットワークの課題（事業・組織・財源の課題はいろいろあるけど）

【ネットワークの強化！】

災害を経験し、Nネットの強みと弱みが明らかに。

＜強み＞ネットワークがある！

＜弱み＞ネットワークがない！

県域のネットワークが一つあるだけでは不十分

⇒市町村域でのネットワーク構築支援

クラスターアプローチ的な平時の備え

⇒各分野毎の県内支援団体のつながりづくり

⑩これからの課題

<市町村域での災害支援ネットワークづくり>

- ・ 長野市・佐久市・諏訪市・・・そういう動きを支援する。
- ・ 長野県の地域防災計画にはNネットは明記されたが、市町村の地域防災計画にはまだ記載ない＝市町村行政との連携に課題がある。
⇒ここは県行政にも期待、コツコツと一歩ずつ！

<各分野毎の災害支援の関係団体のつながりづくり>

- ・ 重機支援＝小布施町の日本笑顔プロジェクトさんの活動
⇒平時を楽しみ有事に備える、日本初のライフアミューズメントパークNUOVO（ノーボ）の全国展開構想
- ・ 食事支援＝長野県内キッチンカーのネットワークづくり
- ・ こども支援＝ながのこどもの城いきいきプロジェクトさんの活動

- ・地域と協同研究センター 9月11日公開セミナー
「長野県災害時支援ネットワーク」立ち上げと
台風・豪雨災害での連携について

◆まとめにかえて・・・

- 生協（協同組合）はまだまだ災害支援においては、初心者です。
- 生協（協同組合）のポテンシャルはまだまだこんなものじゃない。
⇒協同組合人としてのアイデンティティー、組合員の力は絶大、想いを力に変える組織。
- 生協（協同組合）の事業インフラと災害支援の役割発揮の連携はまだ未開拓分野
⇒共同購入のシステム。配送車両が地域を走っている。地域の接点が多いこと。
事業者と物流システム。同じ想いでつながっている全国連帯のネットワークがある。
- 全国の優れた県域ネットワークのモデル・見本があるが。岡山県・佐賀県・熊本県・大阪府……
- 虎穴に入らずんば虎子を得ず
 - ・ネットワークに所属しないと……
 - ・ネットワークに参加していても……では声はかからない。
 - ・ネットワークの運営に関わって、初めて被災地が見えてくる。
 - ・組織のミッションとしての災害支援の位置づけ。最後は「人」の熱意と想いと信頼が鍵



○ 関連サイト

- ① 長野県災害時支援ネットワーク
- ② スマートサプライ
- ③ シーズマッチング
- ④ 信州農業再生復興ボランティアプロジェクト
- ⑤ ONE NAGANO（長野県サイト）
- ⑥ ONE NAGANO基金

①



②



③



④



⑤



⑥

